

若草



恵庭市立若草小学校だより
令和8年2月24日(火)第13号



★学校教育目標★

- よく考える子
- 思いやりのある子
- 最後までやりぬく子
- すすんで体をきたえる子

学校評価(自己評価・学校関係者評価)結果のお知らせ

学校では、その年度の学校経営・運営、教育活動などを総括的に評価し、次年度の計画づくりに役立てています。以下に令和7年度の取組に関する「職員による自己評価(内部評価)」と「学校関係者評価(外部の方による客観的評価)」を記載しています。今年度の反省を次年度に生かしてまいります。

No	項目	項目観点と改善の方向	自己評価の結果	自己評価結果の適切さ
1	学校経営 (組織・運営)	経営方針を踏まえた学年・学級経営、校務分掌の組織的な業務推進。	B	B
		改善の方向 職員の協働を深め、業務改善を加速する。分掌を超えた連携を強化し、チーム若草として、全職員が自分事として学校全体を意識し、運営に参画できるように業務を進める。		
2	教育課程	学習指導要領の趣旨に沿った教育課程の編成と管理・実施・評価の充実を図る。	B	B
		改善の方向 若草っ子しあわせプランに基づき、子どもたちの成長を支援する。学習指導要領に基づいた教育活動の充実を図り、各教科の連携を深める。英語教育や道徳教育も推進していく。		
3	研修	UDLの授業による“わかる・できる”授業づくり。主体的・対話的で深い学びや対話活動の質の充実。意欲を持ち、研修を重ねる。	B	B
		改善の方向 授業の成果と課題を共有し、児童が主体的に学ぶことができる授業を目指す。自己調整力を育み、各教科で必要なスキルを身に付けるための指導改善を進める。		
4	危機管理	危機を予知・回避する実践力を養う体験的・実践的な避難訓練や防犯訓練等の充実。	B	B
		改善の方向 危機管理マニュアルを更新し、全職員で共有する。不審者対応や引き渡し訓練の実施など、児童の安全確保を徹底し、学校全体の安全対策を強化していく。		
5	特別支援教育	特別支援教育 Co. を中心とした、計画的・継続性を大切にされた支援教育の推進。	A	A
		改善の方向 個別の指導計画に基づき、一人一人の児童に寄り添ったきめ細やかな支援を徹底する。支援員を活用し、サポート体制を強化する。教育相談活動にも力を入れた機関と連携する。		
6	学習指導	確かな学力の定着に向けた授業改善と個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実を図る。	B	B
		改善の方向 学習規律の定着と授業改善を進め、学力向上に努める。習熟が必要な単元を明確にし、特に算数の授業ではしっかりと自力解決や対話場面・習熟の時間を設ける。		
7	家庭学習	家庭学習の充実による学習習慣の定着。	B	B
		改善の方向 家庭学習の習慣化を図り、やり遂げる力を身に付けさせる。また、学習効果を実感できる場を設け、学習に向かう気持ちを持たせる。		

8	生徒指導	共感的な児童理解や教育相談など関係機関との連携・予防を意図した総合的な取り組みの充実によるいじめや不登校のない学校づくりの推進。	B	B
		改善の方向 児童の主体性を育み、学校全体を活性化させる。いじめ・不登校防止に力を入れ、全ての児童が安心して学校生活を送れるよう、全職員の目配りと支援を継続していく。		
9	他者との関わり	一人一人のよさを生かし互いに認め合う活動を通じた、コミュニケーション能力の向上。	B	B
		改善の方向 アセスメントツール（「ほっと」）を活用し、一人一人のよさを生かし、互いに認め合う学年・学級づくりを推進する。学級活動における達成感や所属感の向上を図る。		
10	体育活動	心身の健康を保持増進する態度の育成。	B	B
		改善の方向 児童の体力向上を目指し、体力向上プランを改善する。体力テストの実施時期は柔軟に対応する。性教育の指導計画の見直しを進める。		
11	健康教育	基本的な生活習慣の定着をめざした家庭と連携した指導の充実。	B	B
		改善の方向 学校と家庭が連携し、基本的な生活習慣の定着を図るとともに、ケガや病気の予防や対処法など保健・衛生の意識を高める啓発を行う。		
12	環境向上	校舎内外の環境整備や美化、活動のよさが見える掲示活動に努めた潤いのある生活環境づくり。	B	B
		改善の方向 児童が学習に集中し豊かな心を育ていける、潤いのある整った生活環境づくりを委員会活動なども関連付けながら進めていく。		
13	経理事務	学校運営の安定のための計画的な学校財務の執行。	A	A
		改善の方向 広く職員に意見を求め、複数体制で事故防止に努めるという凡事徹底による財務の執行を継続する。		
14	情報教育	1人1台端末の有効活用における個別最適な学びと協働的な学びの推進。	B	B
		改善の方向 スマイルドリル以外の教材の活用や、クロームブックの効率的な運用を図ることができた。一方でモラルやマナー面での指導も並行して進める必要がある。		
15	コミュニティ・スクール	保護者や地域社会とともにつくる学校づくりの推進。	B	B
		改善の方向 学校の実態を共有し、地域と連携して教育活動を推進する。地域素材を生かした教育活動を推進し、地域との連携を深めていく。		
16	小中一貫教育	若草・柏陽 Line 7により、小中一貫教育の意義を十分踏まえた有意義な活動を推進。	B	B
		改善の方向 これまでの実績を継承・分析・改善しながら、若草・柏陽ならでの、小中一貫教育が進められている。各プロジェクトごとに自走する組織に成長している。		
17	働き方改革	効率的・効果的な働き方の工夫と教育の質を高める組織の業務改善。	B	B
		改善の方向 ICTの活用や業務改善に取り組んだことで、超勤時間は縮減傾向にある。生み出した時間をいかに有効活用していくか協議していく。		

【学校運営協議会 学校関係者評価委員からの意見】

- ☆ 他校のCSの取組の様子も知れる機会があると参考になるのでは。
- ☆ 会議の回数や参集範囲を工夫することで個々の負担軽減を図ってはどうか。
- ☆ 実際の学校現場の課題などについて、可能な範囲で現状を教えてください。